

女子短大生のライフスタイルの研究III

——短大生活への適応過程について*——

永 田 照 子
菅 田 圭 次
恵 玲 子

I. はじめに

短期大学を志望する学生は、大学に対してどんな動機をもち、いかなる目標あるいは期待をもっているのか、そして入学後どのように短大生活に適応していくのか、または不適応を生ずるのか、それに対してわれわれはどのように対処していくべきなのか、そういったさまざまな疑問に少しでも答えるべく、われわれは、まず短大生の意識調査をすることによって実態を把握し、意識の構造とその変化を明らかにし、そこに働く要因を見出すために、2年間にわたって研究を進めてきた^(1,2)。

その結果、短大生の志望動機、生活の実態意識の構造とその変化を明らかにするとともに職業選択を中心とした学生自身の将来の展望について知見が得られた。また短大生活の適応の問題にも若干触れ、1年生から2年生へと適応が進行することが示唆された。

適応に関しては視点のちがいによりさまざまな考え方があるが、心理学辞典⁽³⁾によれば、「適応は生活体と環境とが調和した関係を保つことをいう。すなわち、環境からの要請に答えると同時に生活体の諸要素が充足されている関係をいう。しかし、一般にはこうした調和関係は少ない。そのため、環境からの要請に答えようとして生活体自身が努力することを適応といたり、あるいは、生活体自身の要求が充足されることを適応といたりする。…」と定義されている。

学生生活における適応の問題はさまざまな観点から検討されている。大学の生活は一面では教育の場である大学という公式的集団に属しているが、また他方では成員相互の情緒的結合によって形成される第一次的な非公式的集

*この論文のもとになった資料の各種統計計算は学習院大学計算機センターの今井賢氏の協力による。

団にも属している。安藤⁽⁴⁾は、「学校を教授＝学習の場」として単一機能的に定義し、その視点から環境と組織を整備し、プログラムを企画、運営するのではなく、学校組織を青少年のみならず、教職員にとっても「生活の場」として住みごこちのよいところにする、あるいは「人間化する」ことが大切なもう一つの課題であるように思われる」と述べ、教育の場と同時に生活の場としての重要性を説いている。

学生生活において、教育を目的とする面での適応の問題と同時に生活の場としての適応の問題、そして両者の絡みがまた問題となろう。学生生活の適応の問題は、明らかでない部分も多く、特に短大という短い2年間で、どのように適応がなされるのか、また問題点はどこにあるのかという議論は殆んどなされていない。

本論文では、短大に対する学生の期待と現実とその間のずれが、どのように適応と関係してくるのかといった問題を中心に、適応に働く要因を若干検討してみたい。

II. 目 的

以上のような問題意識を背景として、女子短大へ入学してくる学生がどんな志望動機をもっているか、また短大に何を期待しており現実をどのようにうけとめているのかといった問題についての調査を試み、それらと適応との関係を浮き彫りにすることを目的としている。また蓄年的な学生の意識構造の変化を検討することも目的としているので、これまでなされてきた調査も実施し、同一対象者に対する前年度と同一の調査も含まれる。

III. 調査方法

今回の調査の方法は次のとおりである。

- (1) 調査対象者 東京工芸大学女子短期大学部に在学する学生、451名(1年生276名、2年生175名)。
- (2) 調査項目の作成 前年度(昭和60年)実施した調査の項目を若干修正し、短大生活に対する期待と現実を問う項目が加えられ、全体として次のような事項に関する項目が用意された。
 - i) 住居様式、出身校
 - ii) 入学の志望動機
 - iii) アルバイト
 - iv) 課外活動

- v) 愛校心、目標達成への努力、不安や悩みなど精神的側面
- vi) 卒業後の進路に関する期待
- vii) 学習面や日常生活に関連する事項
- viii) 短大生活全般への適応の状態
- ix) 短大生活全般に対する期待と現実

なお、項目 i) から v) までは 2 年生においては前年度調査済であり、あらためて問われなかった。

- (3) 実施方法 各学年クラスごとに集団的に行った。調査は無記名で行われたが、前年度の調査との対応をつけ得るように、整理番号がつけられた。回答は評価の対象にならないこと、またすべて一括して統計的に処理され、個人の秘密が公表されることはないことが強調された。所要時間は約30分であった。

- (4) 実施期間 昭61年 7 月14日～ 7 月19日の期間。

IV. 結果と考察

蓄年的な学生の意識構造の変化を捉えるための調査を試みているため、調査内容は多方面にわたり、かつ前年度と同一の調査も含まれているが、既になされた 2 回の調査とほぼ同様の結果が得られた項目については、ここでの報告は省略される。

ただし、今回の報告の主目的である短大生の大学に対する期待と現実と適応の関係の中で、本年度の調査結果が示される場合がある。調査対象は右に示されるような記号で表わされる。また、前年度の調査結果と比較して考察が進められる場合があるが、60-1と61-2は同一の調査対象者である。

年 度	人数	記号
60年度 1 年生	176	60-1
61年度 1 年生	276	61-1
61年度 2 年生	175	61-2

1. 女子短大生の短大に対する期待と現実について

短大に入学した学生が、短大のさまざまな側面に対して求める期待と現実はどうのようなものであるか。われわれは14の項目について100点を満点として期待と現実がそれぞれ何点であるかを 0 点から100点まで10点きざみの尺度で判断を求めた。その結果が表1-1（1 年生）と表1-2（2 年生）に示されている。また、図 1 にそれぞれの項目について期待と現実の平均値が示されている。

まず、期待の高さをみると、学業生活の面では「専門的技術を身につける」、

表 1-1 短大生活に対する期待と現実 (1年生)

項目	得点		0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	無記入	平均値
			N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N
専門的技術を身につける	(期待)	0(0)	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	0(0)	18(7)	8(3)	20(7)	93(34)	43(16)	92(33)	0(0)	84.6
	(現実)	2(1)	2(1)	5(2)	8(3)	16(6)	64(23)	36(13)	59(21)	56(20)	56(20)	17(6)	11(4)	0(0)	63.8
先生との交流	(期待)	13(5)	12(4)	14(5)	27(10)	8(3)	104(38)	16(6)	32(12)	30(11)	12(4)	1(0)	7(3)	1(0)	51.3
	(現実)	24(9)	23(8)	39(14)	26(9)	26(9)	83(30)	25(9)	14(5)	12(4)	12(4)	1(0)	2(1)	1(0)	39.0
クラブ活動	(期待)	15(5)	6(2)	3(1)	9(3)	3(1)	48(17)	12(4)	43(16)	56(20)	56(20)	28(10)	51(18)	2(1)	68.4
	(現実)	49(18)	36(13)	31(11)	36(13)	18(7)	50(18)	13(5)	14(5)	11(4)	11(4)	6(2)	10(4)	2(1)	34.5
友達を作る	(期待)	2(1)	1(0)	4(1)	3(1)	6(2)	37(13)	11(4)	25(9)	68(25)	68(25)	31(11)	87(32)	1(0)	78.6
	(現実)	2(1)	4(1)	4(1)	3(1)	7(3)	48(17)	22(8)	42(15)	67(24)	67(24)	32(12)	44(16)	1(0)	72.0
学友会活動	(期待)	42(15)	12(4)	20(7)	33(12)	11(4)	75(27)	23(8)	26(9)	21(8)	21(8)	6(2)	6(2)	1(0)	42.6
	(現実)	52(19)	27(10)	25(9)	41(15)	30(11)	64(23)	10(4)	20(7)	20(7)	6(2)	0(0)	0(0)	1(0)	32.3
学問追求の場	(期待)	12(4)	3(1)	7(3)	12(4)	9(3)	86(31)	18(7)	49(18)	57(21)	57(21)	9(3)	14(5)	0(0)	59.7
	(現実)	19(7)	14(5)	18(7)	25(9)	30(11)	98(36)	26(9)	27(10)	18(7)	18(7)	0(0)	1(0)	0(0)	44.7
自由な雰囲気	(期待)	1(0)	2(1)	4(1)	4(1)	4(1)	34(12)	15(5)	24(9)	75(27)	75(27)	43(16)	70(25)	0(0)	78.0
	(現実)	6(2)	15(5)	13(5)	28(10)	21(8)	72(26)	37(13)	34(12)	36(13)	36(13)	5(2)	9(3)	0(0)	52.6
教養を深める	(期待)	1(0)	0(0)	4(1)	4(1)	6(2)	36(13)	24(9)	49(18)	72(26)	72(26)	31(11)	49(18)	0(0)	74.5
	(現実)	3(1)	6(2)	13(5)	20(7)	23(8)	69(25)	39(14)	46(17)	40(14)	40(14)	9(3)	8(3)	0(0)	56.7
自由な時間	(期待)	2(1)	4(1)	1(0)	5(2)	5(2)	27(10)	6(2)	41(15)	65(24)	65(24)	41(15)	79(29)	0(0)	78.9
	(現実)	13(5)	21(8)	22(8)	36(13)	44(16)	61(22)	27(10)	39(14)	9(3)	9(3)	1(0)	3(1)	0(0)	43.5
他大学との交流	(期待)	7(3)	6(2)	3(1)	3(1)	2(1)	20(7)	9(3)	19(7)	56(20)	56(20)	43(16)	108(39)	0(0)	80.8
	(現実)	101(37)	53(19)	40(14)	34(12)	14(5)	24(9)	2(1)	3(1)	4(1)	4(1)	0(0)	1(0)	0(0)	17.6
設備	(期待)	0(0)	3(1)	0(0)	1(0)	0(0)	27(10)	20(7)	45(16)	84(30)	84(30)	34(12)	62(22)	0(0)	78.8
	(現実)	1(0)	5(2)	10(4)	17(6)	14(5)	49(18)	26(9)	50(18)	56(20)	56(20)	30(11)	18(7)	0(0)	64.5
専攻学科	(期待)	3(1)	2(1)	1(0)	5(2)	0(0)	38(14)	16(6)	44(16)	76(28)	76(28)	27(10)	63(23)	0(0)	79.5
	(現実)	4(1)	5(2)	9(3)	14(5)	13(5)	61(22)	39(14)	45(16)	55(20)	55(20)	16(6)	14(5)	0(0)	65.0
カリキュラム	(期待)	3(1)	2(1)	4(1)	3(1)	4(1)	38(14)	13(5)	47(17)	76(28)	76(28)	33(12)	53(19)	0(0)	74.9
	(現実)	6(2)	9(3)	13(5)	23(8)	22(8)	62(22)	43(16)	54(20)	32(12)	32(12)	7(3)	5(2)	0(0)	54.6
本学に対する満足度	(期待)	5(2)	3(1)	4(1)	9(3)	5(2)	33(12)	19(7)	41(15)	68(25)	68(25)	24(9)	65(24)	0(0)	73.7
	(現実)	13(2)	17(6)	18(7)	22(8)	19(7)	72(26)	32(12)	36(13)	36(13)	36(13)	8(3)	3(1)	0(0)	50.3

表 1-2 短大生活に対する期待と現実（2年生）

項目	得点		0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	無記入	平均値
	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)	N
専門的技術を身につける	(期待) 1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	9(5)	2(1)	15(9)	67(38)	32(18)	48(27)	0(0)	83.9
	(現実) 0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(2)	10(6)	12(7)	42(24)	48(27)	34(19)	22(13)	3(2)	1(1)	0(0)	59.0
先生との交流	(期待) 0(0)	1(1)	9(5)	18(10)	5(3)	57(33)	16(9)	26(15)	32(18)	4(2)	7(4)	0(0)	58.2		
	(現実) 3(2)	8(5)	12(7)	13(7)	24(14)	49(28)	17(10)	28(11)	17(10)	3(2)	1(1)	0(0)	50.5		
クラブ活動	(期待) 7(4)	4(5)	6(3)	6(3)	3(2)	43(25)	12(7)	19(3)	43(25)	13(7)	18(10)	1(1)	63.6		
	(現実) 24(14)	15(9)	18(10)	22(13)	16(9)	33(19)	14(8)	6(9)	13(7)	8(5)	5(3)	1(1)	40.1		
友達を作る	(期待) 0(0)	1(1)	0(0)	3(2)	2(1)	31(18)	12(7)	15(14)	44(25)	18(10)	49(28)	0(0)	77.4		
	(現実) 0(0)	0(0)	0(0)	3(2)	0(0)	24(14)	15(9)	25(6)	47(27)	23(13)	38(22)	0(0)	77.5		
学友会活動	(期待) 19(11)	7(4)	13(7)	17(10)	13(7)	53(30)	13(7)	11(6)	17(10)	0(0)	8(5)	4(2)	45.2		
	(現実) 28(16)	13(7)	22(13)	15(9)	6(9)	46(26)	11(6)	10(6)	8(5)	1(1)	1(1)	4(2)	36.0		
学問追求の場	(期待) 2(1)	1(1)	1(1)	5(3)	6(3)	54(31)	19(11)	25(14)	46(26)	8(5)	8(5)	0(0)	64.1		
	(現実) 2(1)	3(2)	8(5)	10(6)	21(12)	79(45)	25(14)	18(10)	7(4)	1(1)	1(1)	0(0)	50.2		
自由な雰囲気	(期待) 0(0)	0(0)	2(1)	1(1)	4(2)	19(11)	6(3)	25(14)	54(31)	19(11)	45(26)	0(0)	79.0		
	(現実) 1(1)	5(3)	8(5)	3(2)	9(5)	45(26)	28(16)	29(17)	32(18)	7(4)	8(5)	0(0)	60.6		
教養を深める	(期待) 1(1)	0(0)	1(1)	1(1)	1(1)	17(10)	17(10)	29(17)	58(33)	23(13)	27(15)	0(0)	76.6		
	(現実) 0(0)	4(2)	6(3)	7(4)	13(7)	52(30)	32(18)	38(22)	17(10)	5(3)	1(1)	0(0)	57.0		
自由な時間	(期待) 0(0)	0(0)	1(1)	1(1)	1(1)	27(15)	15(9)	24(14)	44(25)	21(12)	41(23)	0(0)	77.3		
	(現実) 1(1)	2(1)	7(4)	11(6)	11(6)	43(25)	29(17)	24(14)	29(17)	8(5)	10(6)	0(0)	60.2		
他大学との交流	(期待) 7(4)	2(1)	5(3)	7(4)	3(2)	26(15)	14(8)	15(9)	42(24)	25(14)	29(17)	0(0)	69.4		
	(現実) 55(31)	30(7)	23(13)	17(10)	18(10)	23(13)	6(3)	1(1)	0(0)	0(0)	2(1)	0(0)	21.5		
設備	(期待) 0(0)	0(0)	0(0)	3(2)	2(1)	26(15)	15(9)	29(17)	51(29)	16(9)	33(19)	0(0)	75.5		
	(現実) 1(1)	6(3)	3(2)	6(3)	11(6)	37(21)	23(13)	29(17)	35(20)	13(7)	11(6)	0(0)	63.3		
専攻学科	(期待) 0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	1(1)	28(16)	8(5)	26(15)	62(35)	25(14)	23(13)	1(1)	76.3		
	(現実) 0(0)	0(0)	1(1)	6(3)	9(5)	34(19)	32(18)	42(24)	34(19)	13(7)	3(2)	1(1)	65.0		
カリキュラム	(期待) 0(0)	0(0)	1(1)	1(1)	2(1)	16(9)	14(8)	36(21)	59(34)	23(13)	23(13)	0(0)	76.5		
	(現実) 0(0)	0(0)	5(3)	7(4)	8(5)	36(21)	30(17)	49(28)	28(16)	10(6)	2(1)	0(0)	62.9		
本学に対する満足度	(期待) 0(0)	0(0)	2(1)	5(3)	1(1)	16(9)	10(6)	39(22)	51(29)	25(14)	26(15)	0(0)	75.9		
	(現実) 2(1)	2(1)	3(2)	11(6)	7(4)	31(18)	29(17)	44(25)	30(17)	14(8)	2(1)	0(0)	62.4		

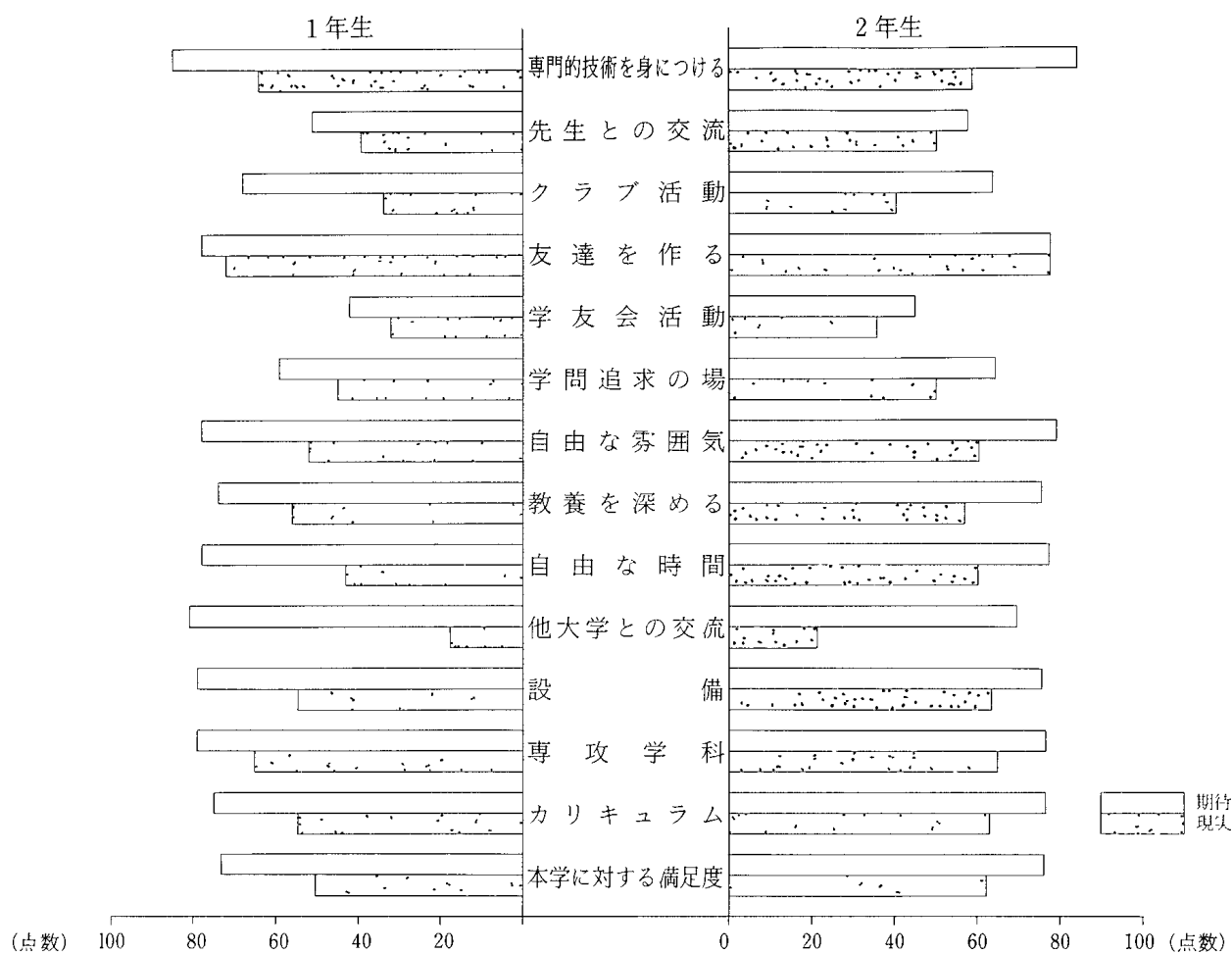


図1 短大生活に対する期待と現実（平均値）

「専攻学科」といった主として技能習得と秘書科というものに対する期待が高く、他方、学生生活の面では「友達を作る」、「他大学との交流」という友人関係に期待が高い。それに対して「学問追求の場」、「先生の交流」、「学友会活動」は相対的に期待が低くなっている。専門的技術習得を主目的と短大生が考える専攻学科という公式集団に期待をもち、友達を作るという情緒的な非公式集団にも期待をかけているということであろうか。この期待の高さはどの項目についても学年差は統計的に有意ではなく、学年によるちがいはみられなかった。

次に期待と現実の差に眼を向けてみる。全体として期待が現実を上回っていて、各項目についてその平均値の差を比べてみると、2年生の「友達を作る」以外の項目すべてについて、t検定の結果は0.1%水準で有意差があり、統計的にも期待が現実より高いことが示された。期待が現実より高いということは、その間にギャップが生じていることであるが、多くの場合、ギャップがあるからそれがすぐさま不適応行動につながることはないであろう。

表 2 短大生活に対する期待と現実の差 (期待—現実)

項 目	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0	-10	-20	-30	-40	-50	-60	-70	-80	-90	-100	平均値	S. D.	t
専門的技術を身につける (1年) (2年)			1	6	1	24	31	51	58	27	55	14	3	4		1						20.8	20.68	2.230*
先生との交流 (1年) (2年)		1	6	7	10	18	15	39	28	19	74	15	19	14	5	4	2	2		1		12.3	29.76	1.663+
クラブ活動 (1年) (2年)	10	8	19	10	23	45	26	29	13	22	48	5	7	5	1	2	1	2				33.6	34.20	3.216**
友達を作る (1年) (2年)		1	2	1	3	14	10	18	36	40	94	16	18	11	5	5	1	1	1			6.6	24.08	3.191**
学友会活動 (1年) (2年)			1	1	3	9	19	26	30	28	140	8	9		1		1					10.3	18.45	0.687
学問追求の場 (1年) (2年)		1	4	4	1	12	19	32	48	28	117	5	4	2	1		1					15.0	20.35	0.648
自由な雰囲気 (1年) (2年)	3	9	8	10	7	38	20	43	28	28	56	6	8	8	1	1	1		1			25.4	30.45	2.694**
教養を深める (1年) (2年)	2	2	4	4	2	19	19	34	60	45	74	6	6	2	1							17.8	21.03	0.843
自由な時間 (1年) (2年)	7	11	14	16	22	32	31	39	40	14	34	4	6	2	1	2	1					35.4	30.55	6.852***
他大学との交流 (1年) (2年)	50	23	45	36	31	34	11	11	5	6	18		2	1	1	1		1				63.2	32.18	5.025***
設備 (1年) (2年)	1	1	3	3	6	19	15	39	33	45	80	12	14	6	2							14.2	22.41	0.817
専攻学科 (1年) (2年)			1	5	8	12	8	31	56	42	96	8	5	3	1							14.5	19.67	1.814+
カリキュラム (1年) (2年)	1	3	2	7	10	19	22	30	53	39	78	5	6	1								20.3	22.75	3.381***
本学に対する満足度 (1年) (2年)	3	3	4	7	9	25	22	52	48	35	48	6	6	5	1	2						23.4	25.38	4.447***

+ P<0.10 * P<0.05 ** P<0.01 *** P<0.001

う。ある程度のギャップはそれが現実という形でうけとめられよう。また逆に期待に近づくべき意欲となるかもしれない。しかし、「友人関係」という情緒的な側面については、ギャップがあることは非常に不安定な心的状態に陥ることから、とにかく気の合う友達を求め、作ってギャップをなくすることが普通であると考えられるのであろう。

期待と現実の差についてももう少し分析を進めてみよう。個人毎に期待と現実の差の値を求めたものが表2に示されている。個人毎に差を求めた場合も上記と同様のことが認められたが、学年による差のちがいはどうであろうか。これについて各項目毎にt検定をした結果が表2の右端に示されている。多くの項目について2年生の方が1年生より差の小さいことが統計的にも示された。すなわち短大に対する期待より現実の方が低いけれども、その差は2年生においてちぢまっており、相対的に適応が進んでいるのではないかと考えられる。「友達を作る」は、2年生において現実の方が期待を上回っており、短大生活において友達を作る面では充分満足し、適応していることがわかる。また、「他大学との交流」、「自由な時間」、「クラブ活動」といった1年生で差の大きかった項目についても差がかなり縮まり、相対的に適応が進んでいることがうかがわれる。「カリキュラム」、「本学に対する満足度」についても同様である。

ところが、ただ一つ「専門的技術を身につける」が反対に2年生において差が大きくなっている。これは、専門的技術を身につけたいと非常に高い期待を有しながら、期待通り身につかない現実を大学側に原因ありとぶつていのではないか。何人かの学生の内省報告でも「なかなかむずかしく身につかない。これは授業回数が少ないからだ。でも自分達の努力が足りないのも原因」と述べている。

次に、以上のような期待と現実の差を生じさせていると思われる要因についてさらに考えてみたい。

和田ら⁽⁵⁾は、4年制大学の1年生について、大学の志望順位と大学の満足度との間に正の相関がみられたことを報告している。われわれの場合に、期待と現実の差が小さいほど(絶対的な期待の高さが問題ではあるが)、不満は少ないと考えられる。そこで、われわれは、期待と現実の差を生じさせている要因として、短大に対する志望動機、4年制・短大のいずれを志していたか、短大生活の適応度を考え、これらの要因と期待、現実、その差の間の関係を検討してみたいと思う。

2. 短大に対する期待，現実，両者の差と志望動機などとの関係

短大受験時に本来，4年制・短大のいずれを志望していたか，あるいは短大を選んだ理由は何であったかで期待，現実，差の値が異なるのではないかと考え，これらの間の関係の分析が試みられた。

まず，4年制か短大のいずれを志望していたのかを調べた結果は表3のごとくであった。約30%の学生は不本意ながら短大へ入学したということであり(過去2回の調査でも同じ結果である)，少なくとも入学当初，期待も現実も低いことが予想される。

また，短大を選んだ理由によって，期待，現実，差が異なることも考えられる。短大を選んだ理由は表4に示されている。すなわち，就職に有利が最も多く，ついで専門知識の習得，期間的にちょうどよいとなっている。

表2の結果を4年制(共学の4年制と女子の4年制をまとめたもの)か短大(共学と女子をまとめたもの)かどちらでもよい(どちらでもよいと無回答をまとめたもの)の3つに分け，期待，現実については平均値より高い値か低い値かで2分割し，両者の関係を表したものが表5に示されている。

表 3 4年制大学と短期大学のどちらに入学したかったか

項目 \ 学年	61-1 N (%)	61-2 N (%)
女子の4年制大学	5(2)	3(2)
共学の4年制大学	84(30)	51(29)
女子の短期大学	146(53)	87(50)
共学の短期大学	22(8)	18(10)
どちらでもよい	19(7)	7(4)
無回答	0(0)	9(5)

表 4 短期大学を選んだ理由

項目 \ 学年	61-1 N (%)	61-2 N (%)
教養・視野の拡大	29(11)	17(10)
専門知識の習得	39(14)	29(17)
期間的にちょうどよい	42(15)	22(13)
就職に有利	116(42)	70(40)
学生生活を楽しむ	6(2)	3(2)
家族のすすめ	16(6)	8(5)
経済的理由	5(2)	6(3)
結婚を考えて	0(0)	3(2)
学歴	5(2)	0(0)
その他	11(4)	7(4)
無回答	7(3)	10(6)

表 5 4 年制大学と短期大学のどちらに入学したかた短大生活に対する期待と現実とその差の関係

期待 現実		期 待						現 実						差 (期待 現実)					
		2 年			1 年			2 年			1 年			2 年			1 年		
		高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)		
項 目	差																		
	年																		
専門的技術を身につける (どちらでもない)	短大	25(46) 48(46) 7(44)	29(54) 57(54) 9(56)	41(46) 84(50) 10(53)	48(54) 84(50) 9(47)	23(43) 64(61) 7(44)	31(57) 41(39) 9(56)	39(44) 97(58) 7(37)	50(56) 71(42) 12(63)	10(19) 5(5) 2(12)	62(70) 121(72) 17(89)	27(30) 47(28) 2(11)	X ²	1	2	3			
先生との交流 (どちらでもない)	短大	26(48) 52(50) 7(43)	28(52) 53(50) 9(57)	45(51) 91(54) 13(68)	44(49) 77(46) 6(32)	27(50) 46(44) 9(56)	27(50) 59(56) 7(44)	53(60) 78(46) 7(37)	36(40) 90(54) 12(63)	25(34) 46(44) 7(44)	38(43) 90(54) 14(74)	51(57) 78(46) 5(26)	1	2	3				
クラブ活動 (どちらでもない)	短大	32(59) 52(50) 9(56)	22(41) 53(50) 7(44)	40(45) 85(51) 12(63)	49(55) 83(49) 7(37)	30(56) 53(50) 7(44)	24(44) 52(50) 9(56)	46(52) 90(54) 8(42)	43(48) 78(46) 11(58)	16(30) 46(44) 6(37)	66(74) 126(75) 13(68)	23(26) 42(25) 6(32)	1	2	3				
友達を作る (どちらでもない)	短大	29(54) 56(53) 4(25)	25(46) 49(47) 12(75)	34(38) 95(57) 12(63)	55(62) 73(43) 7(37)	22(41) 56(53) 4(25)	22(41) 56(53) 4(25)	37(42) 96(57) 11(58)	52(58) 72(43) 8(42)	36(67) 78(74) 12(75)	41(46) 74(44) 10(53)	48(54) 94(56) 9(47)	1	2	3				
学友会活動 (どちらでもない)	短大	26(48) 44(42) 8(50)	29(52) 58(58) 7(50)	50(56) 95(57) 12(63)	39(44) 73(43) 7(37)	33(61) 54(51) 7(44)	21(39) 51(49) 9(56)	39(44) 82(49) 10(53)	50(56) 86(51) 9(47)	23(43) 31(30) 4(25)	37(43) 71(42) 9(47)	52(57) 97(58) 10(53)	1	2	3				
学問追求の場 (どちらでもない)	短大	25(46) 53(50) 9(56)	29(54) 52(50) 7(44)	47(53) 75(45) 7(37)	42(47) 93(55) 12(63)	28(52) 48(46) 7(44)	26(48) 57(54) 9(56)	44(49) 87(52) 8(42)	45(51) 81(48) 11(58)	23(43) 45(43) 5(31)	52(58) 86(51) 11(58)	37(42) 82(49) 8(42)	1	2	3				
自由な雰囲気 (どちらでもない)	短大	25(46) 52(50) 4(25)	29(54) 53(50) 12(75)	44(49) 95(57) 13(68)	45(51) 73(43) 6(32)	25(46) 51(49) 7(44)	25(46) 51(49) 7(44)	40(45) 54(51) 9(56)	49(55) 69(41) 14(74)	32(59) 59(56) 9(56)	58(58) 118(70) 18(95)	31(42) 50(30) 1(5)	1	2	3				
教養を深める (どちらでもない)	短大	23(43) 50(48) 4(25)	31(57) 55(52) 12(75)	44(49) 95(57) 13(68)	45(51) 73(43) 6(32)	20(37) 45(43) 5(31)	20(37) 45(43) 5(31)	34(63) 91(54) 10(53)	41(46) 77(46) 9(47)	41(76) 81(77) 8(50)	57(64) 114(68) 16(89)	32(36) 54(32) 3(11)	1	2	3				
自由な時間 (どちらでもない)	短大	28(52) 50(48) 6(32)	26(48) 55(52) 11(68)	49(55) 80(48) 12(63)	40(45) 88(52) 7(37)	31(57) 53(50) 7(44)	23(43) 52(50) 9(56)	42(47) 87(52) 11(58)	47(53) 81(48) 8(42)	37(69) 58(55) 4(25)	65(73) 144(86) 2(11)	24(27) 24(14) 2(11)	1	2	3				
他大学との交流 (どちらでもない)	短大	29(54) 61(58) 6(32)	22(46) 44(42) 10(68)	46(52) 94(56) 11(58)	43(48) 74(44) 8(42)	24(44) 52(50) 7(44)	30(56) 53(50) 5(31)	36(40) 96(57) 9(47)	53(60) 72(43) 10(53)	49(91) 93(89) 11(69)	80(90) 153(91) 19(100)	9(10) 15(9) 0(0)	1	2	3				
設備 (どちらでもない)	短大	23(43) 53(50) 7(37)	31(37) 52(50) 9(63)	40(45) 90(54) 9(47)	49(55) 78(46) 10(53)	29(54) 53(50) 5(31)	25(46) 51(49) 7(44)	39(44) 88(52) 10(53)	50(56) 80(48) 9(47)	32(59) 59(56) 7(44)	51(57) 101(60) 10(53)	38(43) 67(40) 9(47)	1	2	3				
専攻学科 (どちらでもない)	短大	27(50) 56(53) 7(37)	27(50) 49(47) 9(63)	36(40) 86(51) 9(47)	53(60) 82(49) 10(53)	23(43) 55(52) 7(44)	23(43) 55(52) 7(44)	33(37) 93(55) 5(26)	56(63) 75(45) 14(74)	24(44) 47(45) 9(56)	52(58) 95(57) 16(89)	37(42) 73(43) 3(11)	1	2	3				
カリキュラム (どちらでもない)	短大	25(46) 53(50) 7(37)	29(54) 52(50) 9(63)	43(48) 83(49) 11(58)	46(52) 85(51) 8(42)	26(48) 54(51) 9(56)	26(48) 54(51) 9(56)	43(48) 89(53) 9(47)	46(52) 79(47) 10(53)	20(37) 61(58) 6(37)	56(63) 115(68) 15(79)	33(37) 53(32) 4(21)	1	2	3				
本学に対する満足度 (どちらでもない)	短大	24(44) 55(52) 7(37)	30(56) 50(48) 9(63)	31(35) 91(54) 13(68)	58(65) 77(46) 6(32)	26(48) 49(47) 8(50)	26(48) 49(47) 8(50)	42(47) 93(55) 8(42)	47(53) 75(45) 11(58)	21(39) 42(40) 7(44)	60(67) 130(77) 18(95)	29(33) 38(23) 1(5)	1	2	3				

点数の分布を2分割した場合における高値
 * 点と0を含む

①その他の差
 ②全体
 ③交互作用
 + P < 0.10
 * P < 0.05
 ** P < 0.01
 *** P < 0.001
 ×有意差なし

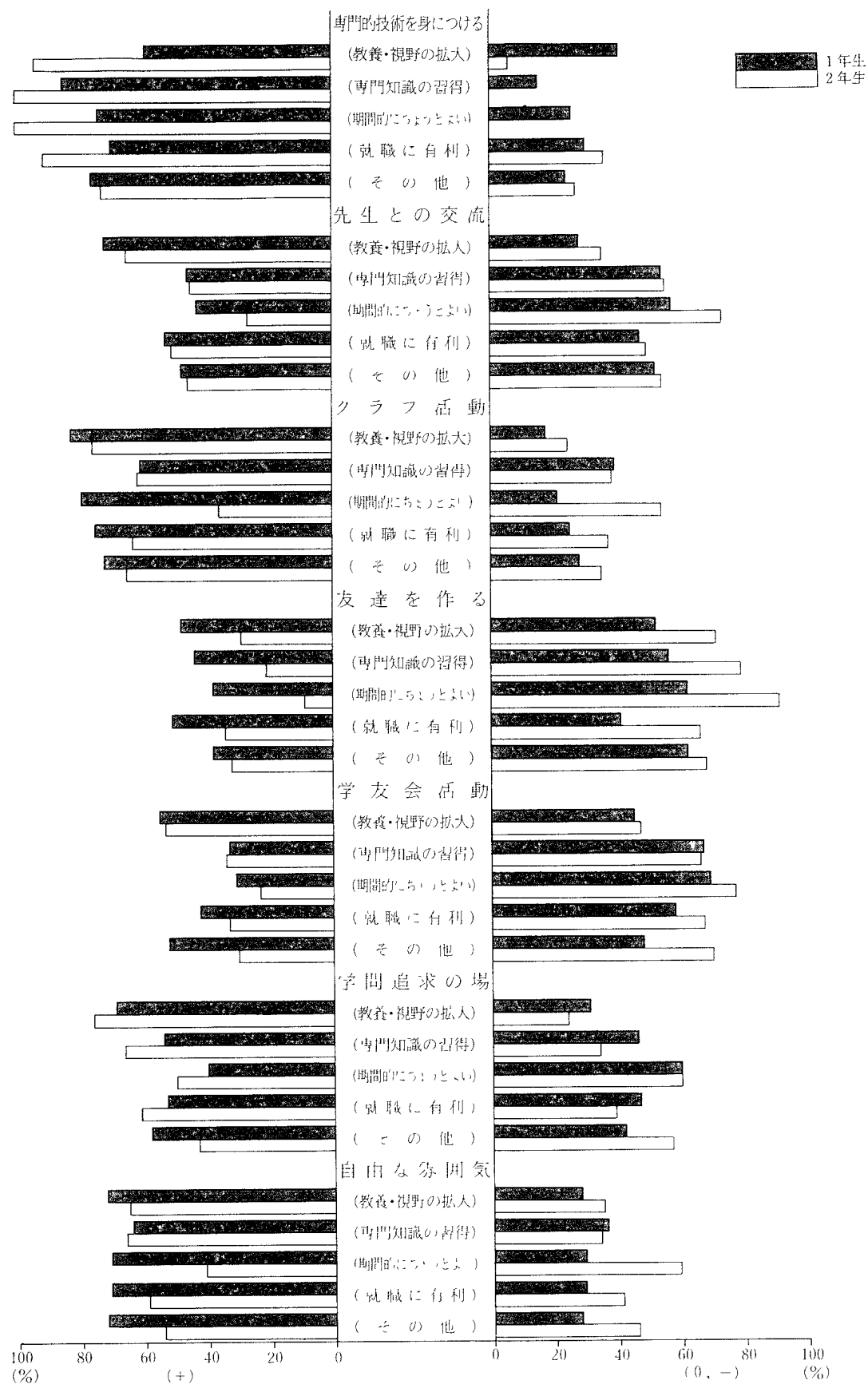


図2-1 短期大学を選んだ理由と短大生活に対する期待と現実の差〔(期待－現実)における、+および、0、-〕の比率

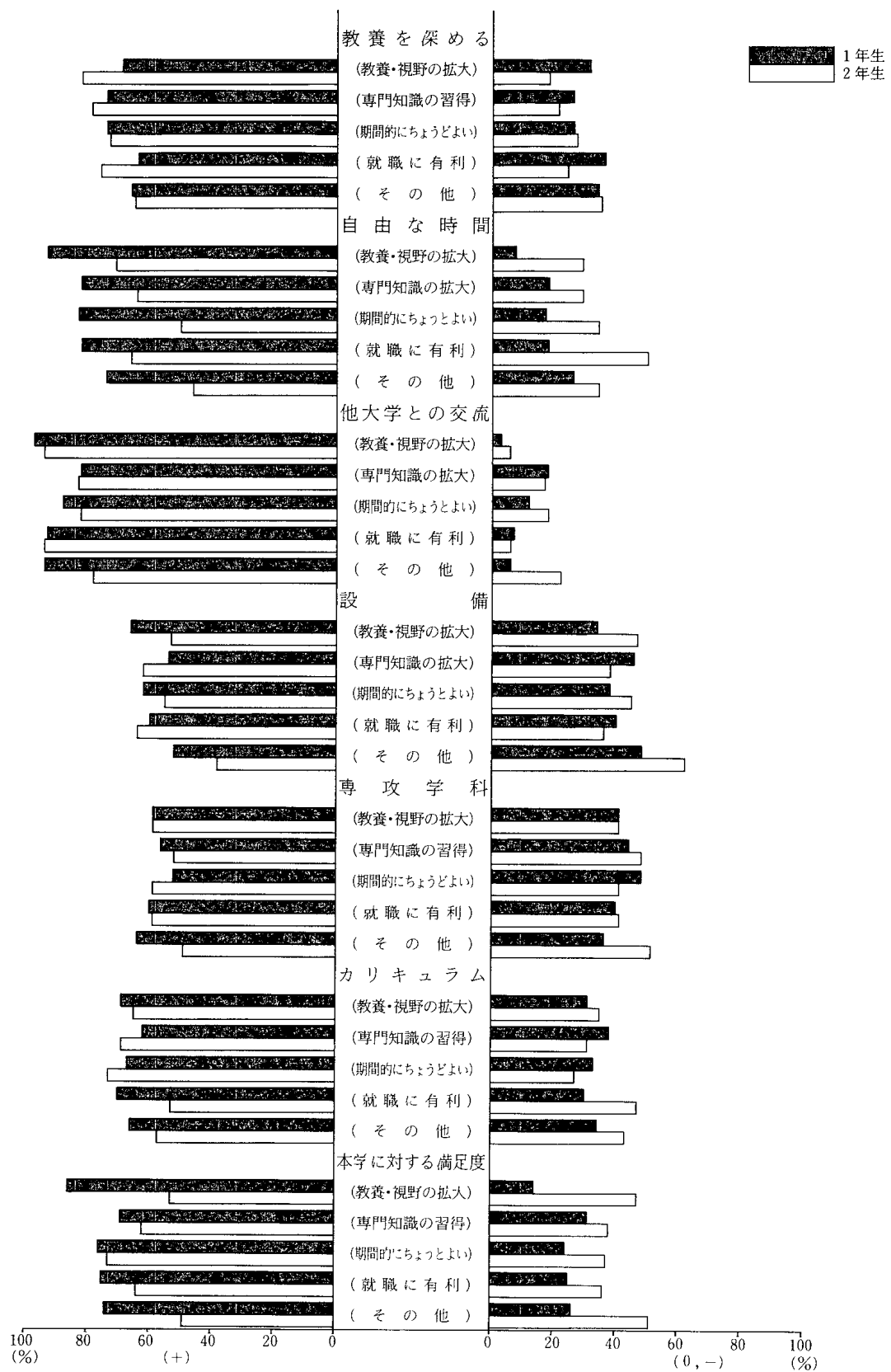


図2-2 短期大学を選んだ理由と短大生活に対する期待と現実の差〔(期待－現実)における、+および、0、-〕の比率

また、差については、「期待－現実」が十の人、すなわちギャップを感じている人とその他（すなわち0か－の人）の人との関係が図2に示されている。

4年制志望であったか短大志望であったかと期待、現実、差の関係は、全体としては、短大志望であったものが4年制志望であったものよりも期待、現実いずれについても得点が高い傾向を示している。

個人ごとの「期待－現実」の差の値について、+であったか（ギャップあり）、または0か－（その他）であったかによるちがいについて χ^2 検査を行ってみた。その結果は、「ギャップを感じている人」が「その他」より少ない項目は、「友達を作る」、「学友会活動」のみで、差がみられないのは「先生との交流」、あとの項目については「ギャップを感じている人」が「その他」よりも多いことが示された。4年制志望・短大志望とギャップあり・その他との交互作用はいずれの項目についても有意差はみられなかったが、短大志望の方が4年制志望者よりもギャップを感じている人が少ない傾向がみられた。

次に志望動機のちがいとギャップあり・その他との関係は（図2）、「教養・視野の拡大」の動機をもっていた者が、相対的に、「学問追求の場」、「先生との交流」、「クラブ活動」の項目でギャップを感じている者が多く、「専門知識の習得」の動機の者はやはり「専門的技術を身につける」の項目で多くなっている。「就職に有利」という最も志望動機の多かった者については、特に明白な傾向はみられなかった。

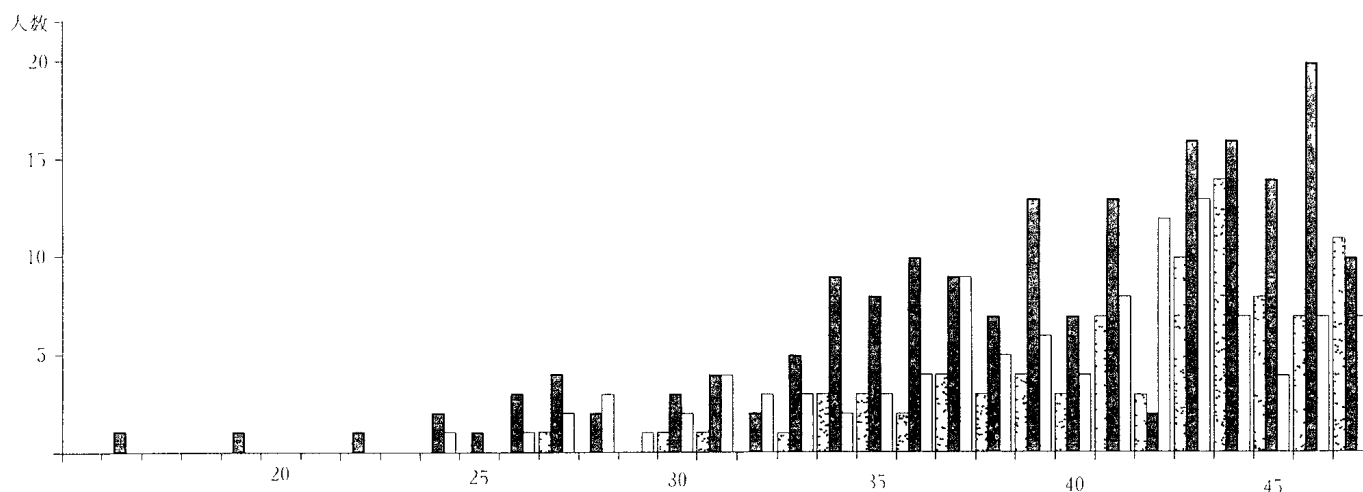


図2 短大生活に対する態度の合計得点の分布（可能な得点の範囲15～75）

3. 短大生活への適応度と期待、現実及びその差との関係について

短大生が現在の短大生活全般にどのような態度を示しているのか、どのように適応しているのかを調べるため、短大生活のさまざまな側面を表していると思われる15の項目について5段階尺度（非常にそうだ：5点～全くそうでない：1点）で評定を求めた。その結果が表6に平均値で示されている。表中*印の付された項目は逆に得点化（非常にそうだ：1点～全くそうでない：5点）されている。1年生の値は本年度の1年生（61-1）と前年度の1年生（60-1）の間に全く差はみられず、2年生において（60-1と同一対象者）殆んど全ての項目で値が高くなっている。

短大生活全般に対する適応度とも呼び得る指標として15項目の得点を個人ごとに合計したものは、前年度の調査においてすでに信頼度係数 $\alpha_s = .928$ で一つの指標としてみなし得ることが統計的に確認されているため⁽⁶⁾、本年度においても、合計点を一つの適応の指標として分析を進めてみた。合計点の学年別の分布と平均値が図3に示されている。平均値についてt検定の結果は、60-1と61-1の間には有意差がなく（ $t=1.301$, $df=449$ ）、同じ対象者の1年次（60-1）と2年次（61-2）の比較は、60-1が44.68、61-2が47.71で0.1%水準で有意差が認められた（ $t=3.572$, $df=347$ ）。すなわち、同じ対象者が1年生から2年生へと進むにつれて適応が進んでいることを示している。この結果は前年度の調査で異なる対象者（前年度の1年生と2年生）について検討した結果と同じであり、本年度のこの分析によって同一対象者の変化として確認された。

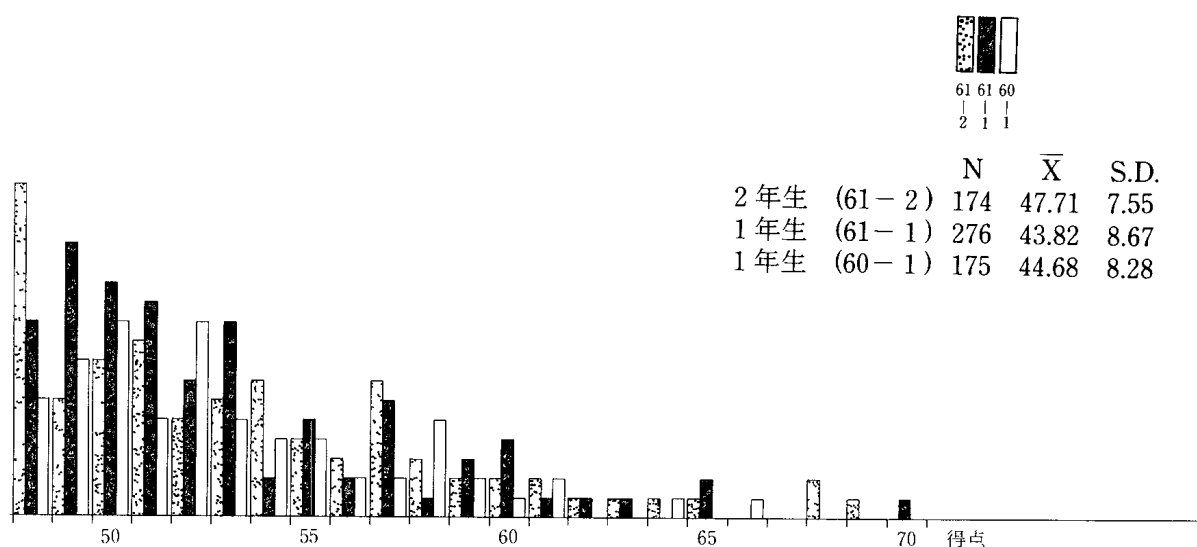


表 6 短大生活に対する態度

項目 \ 学年	60—1	61—1	61—2
毎日充実した学生生活を送っている	2.9	2.8	3.2
毎日充実した学業生活を送っている	2.7	2.6	2.8
惰性的な生活を送っている*	2.8	2.8	3.2
学業に集中できない*	2.8	2.9	3.1
短大へ通うのが楽しい	3.1	2.9	3.3
精神的に疲れている*	2.6	2.5	3.1
肉体的に疲れている*	2.8	2.6	3.4
何となく倦怠感がある*	2.7	2.7	3.1
クラスの雰囲気にとけこんでいる	3.6	3.5	3.8
何をやっていいのかわからない*	3.2	3.3	3.2
自分の存在感がある	3.1	3.1	3.3
進路を間違ったような気がする*	3.4	3.4	3.5
期待と現実のすれを感じる*	2.4	2.5	2.8
短大は中途半端な感じがする*	3.2	3.2	3.0
本学の学生として誇りをもっている	3.1	3.0	3.4
項目の合計の平均値	44.7	43.8	47.7

上記の項目は「非常にそうだ」(5点)から「全くそうでない」(1点)までを得点化したさいの平均値

*印の付いた項目は「全くそうでない」(5点)から「非常にそうだ」(1点)まで逆に得点化されている。

次に、この適応度の高・低と短大に対する期待、現実及び両者の差との関係の分析に進んでみよう。

適応度の得点を1, 2年生それぞれ上・下に2分割(1年生は45点以上を上, 44点以下を下, 2年生においては48点以上を上, 47点以下を下)し, 期待, 現実 は前述のごとく高・低に分割, またその差についてもギャップあり(+)とその他(0, -)に分けて両要因の交互作用が検討された(表7)。

期待の高低と適応度の上下の交互作用は, どの項目についてもみられなかったが, 一方, 現実の高低と適応度の上下の関係では, χ^2 検定の結果, いずれの項目についても交互作用に有意差がみられ, 現実の点数の高いものは適応度も高く, 特にこの傾向は1年生において顕著であった。

このことから, 期待の水準そのものは適応度の上下によって変りはないが, 現実の点数の高い者は適応度も高いことが認められた。

次に個人ごとの「期待－現実」(差)の+ (ギャップあり)と0, - (その他)と適応度の上下との関係について分析された。 χ^2 検定の結果, いくつかの項目に交互作用がみられた。すなわち, 「専門的技術を身につける」では2年

表 7 短大生活に対する態度の合計得点の上下2分割と短大生活に対する期待と現実とその差の関係

項 目	期 待				現 実				差 (期待-現実)			
	2 年		1 年		2 年		1 年		2 年		1 年	
	高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)	高* N (%)	低* N (%)
差												
専門的技術を身につける	41(46) 39(45)	48(54) 47(55)	72(53) 63(45)	65(47) 76(55)	42(47) 33(38)	47(53) 53(62)	92(67) 54(39)	45(33) 85(61)	78(88) 80(93)	11(12) 6(7)	93(67) 107(77)	44(33) 32(23)
先生との交流	47(53) 38(44)	42(47) 48(56)	82(60) 67(48)	55(40) 72(52)	59(66) 44(51)	30(34) 42(49)	76(55) 63(45)	61(45) 76(55)	41(46) 42(49)	48(54) 44(51)	69(50) 73(53)	68(50) 66(47)
クラブ活動	46(52) 47(55)	43(48) 39(45)	70(51) 67(48)	67(49) 72(52)	47(53) 35(41)	42(47) 51(59)	81(59) 42(20)	56(41) 97(80)	53(60) 54(63)	36(40) 32(37)	94(69) 111(80)	43(31) 28(20)
友達を作る	46(52) 37(43)	40(48) 49(57)	63(45) 77(57)	76(55) 60(43)	51(57) 24(28)	38(43) 62(72)	88(64) 55(40)	49(36) 84(60)	15(17) 34(39)	74(83) 52(61)	56(41) 69(50)	81(59) 70(50)
学友会活動	54(61) 53(62)	35(39) 33(48)	55(39) 76(56)	84(61) 61(44)	46(52) 35(41)	43(48) 51(59)	80(58) 51(37)	57(42) 88(63)	29(33) 29(34)	60(67) 57(66)	59(43) 58(42)	78(57) 81(58)
学問追求の場	44(49) 43(50)	45(51) 43(50)	84(61) 52(37)	53(39) 87(63)	59(66) 44(51)	30(34) 42(49)	70(51) 49(35)	67(49) 90(65)	49(55) 53(62)	40(45) 33(38)	79(57) 70(51)	60(43) 67(49)
自由な雰囲気	43(48) 40(47)	46(52) 46(53)	62(45) 77(55)	75(55) 62(45)	60(67) 37(43)	29(33) 49(57)	83(61) 47(34)	54(39) 92(66)	46(52) 54(63)	43(48) 32(37)	88(64) 106(76)	49(36) 33(24)
教養を深める	42(47) 47(55)	47(53) 39(45)	73(53) 61(44)	64(47) 78(56)	50(56) 40(47)	39(44) 46(53)	88(64) 54(39)	49(36) 85(61)	62(70) 68(79)	27(30) 18(21)	86(63) 101(73)	51(37) 38(27)
自由な時間	43(48) 46(52)	46(52) 43(48)	59(43) 81(58)	78(57) 58(42)	46(51) 34(40)	43(48) 52(60)	81(59) 59(42)	56(41) 80(58)	50(56) 55(64)	39(44) 32(36)	110(80) 116(83)	27(20) 23(17)
他大学との交流	43(48) 50(58)	46(52) 36(42)	71(52) 80(58)	66(48) 59(42)	52(58) 38(44)	37(42) 48(56)	73(53) 54(39)	64(47) 85(61)	74(83) 79(92)	15(17) 7(8)	123(90) 129(93)	14(10) 10(7)
設備	48(54) 43(50)	41(46) 43(50)	75(55) 63(45)	62(45) 76(55)	45(51) 43(50)	44(49) 43(50)	85(62) 65(47)	52(38) 74(53)	51(57) 47(55)	38(43) 89(45)	83(61) 79(57)	54(39) 60(43)
専攻学科	39(44) 43(50)	50(56) 43(50)	80(58) 49(35)	57(42) 90(65)	55(62) 38(44)	34(38) 48(56)	94(69) 42(30)	43(31) 97(70)	40(45) 57(66)	49(55) 29(34)	75(55) 88(63)	62(45) 51(37)
カリキュラム	26(29) 30(35)	63(71) 56(65)	72(53) 54(39)	65(47) 85(61)	53(62) 33(38)	33(38) 53(62)	89(64) 78(39)	50(36) 85(61)	49(55) 56(65)	40(45) 30(35)	89(65) 97(70)	48(35) 42(30)
本学に対する満足度	50(56) 51(59)	39(44) 35(41)	81(59) 57(41)	56(41) 82(59)	55(62) 35(41)	34(38) 51(59)	87(63) 28(20)	50(36) 111(80)	44(49) 61(71)	45(51) 25(29)	95(69) 114(82)	42(31) 25(18)

* 点数の分布を2分割した場合における高低

** -と0を含む

+ P<0.10
* P<0.05
** P<0.01

生の方にギャップを感じる人が多いが、適応度の上下の差は1年生より小さい。「専攻学科」，「本学に対する満足度」については、ギャップを感じずる人は2年生において1年生より少なく、かつ、適応度の高い人に少なくなっている。「友達を作る」については、1年生においても、2年生においてもギャップを感じない人の方が多く、また、適応度の高い人に多いが、その傾向は2年生において顕著である。「教養を深める」，「自由な雰囲気」は、ギャップを感じずる人は適応度の低い人に多いことが示された。

以上のことを総合すると、短大生活のなかで、特に友人関係については満足しうる状態にあり、また、2年生になり、一層適応が進むといえよう。この点については前述のごとく、友人関係は充たされて当然、または充たされていると認知できるような関係を保つ結果であろう。

一方、学業生活の面において、「専門的知識を身につける」ことに対しては入学時よりずっと高い期待を抱きつづけているものの、期待通りに身につかない現実とのギャップが一層2年生になり大きくなる。このギャップの原因を自分自身に対してより相手（大学）に転化させているのではないか。これはすでに述べた通りである。しかし、専門的技術は期待通り身につけられないものの、「専攻学科」全体としては、「ある程度の教養を身につけ、実務的なこと、例えばワープロ、礼儀作法、言葉づかいなどについてはかなり身につけたと思う」という2年生の話からも、相対的に適応の進んだものとしてうけとめられ、さらに、全体としての本学に対する満足度も2年生において増す結果となるのであろう。

学生の内省報告によると「高い期待をもって入学しても現実とのギャップは必ずある。そのギャップを受身的にギャップとしていつまでもうけとめていると適応できない。自ら意欲的に積極的に何かを身につけよう、何かで満足を得ようと努力すると、それなりに充実感が味わえ、適応していく」ということである。

志望動機とも合致し、高い期待と現実とのギャップを感じないで過す人にとっては入学当初より適応が進むが、高い期待と現実のギャップにぶつかる人は、短大生活のなかで自分の可能な進む方向を模索し、その方向を捉えていくなかで適応が進むのであろう。

志望動機と必ずしも一致しないで入学した学生（4年制志望）は相対的に期待も現実も低く、またギャップを感じている人も多いことが示唆されたが、われわれの分析結果⁽⁷⁾で、かかる4年制志望であった学生は適応度の得点も相対的に低く、2年生においても、短大志望であった者より適応の進行がおそ

いことが示されており、かかる学生への教師からの助言が必要であると痛感される。

V. おわりに

短大生活において、短大に対する期待と現実とその差が適応過程とどのように関係しているのかをさまざまな要因から検討してきた。

入学当初、期待と現実のギャップはあるものの、1年生から2年生へと進むにつれて、期待そのものは低くならず、現実の値が高まることによって差が縮まる傾向にあることが見出された。全体として適応が進むといえる。

「友人関係」においては現実の値が高く、入学間もない頃から適応していることがわかったが、「専門的技術を身につける」ことは期待と現実のギャップが、2年生において逆に大きくなる傾向がみられ、身につかない原因を対象に転化している部分もあると考えられる。しかし「専攻学科」としてはギャップが小さくなり、「本学に対する満足度」も高くなることを示している。

今後の課題としては、同一対象者についての1年次から2年次への期待と現実の変化を調べて、今回の異なる対象者の結果と比べること、調査を卒業直前の時期にも実施して期待、現実、差と適応の過程を検討する必要があることなどである。

また、卒業後の進路に関する展望とこれらの要因との関係も明らかにしていかなねばならない。

さらに、適応の困難な学生について、パーソナリティとの関係や大学側、教師の側からの対応の問題も検討されねばならないであろう。

参考文献

- (1) 永田照子，菅田圭次，恵玲子共著，「女子短大生のライフスタイルの研究 I——学生の生活及び将来に関する学生自身の展望について——」，飯山論叢Vol. 2，No. 1，1985，275－313.
- (2) 永田照子，菅田圭次，恵玲子共著，「女子短大生のライフスタイルの研究 II——学生の生活及び将来に関する学生自身の展望についての第二次報告——」，飯山論叢，Vol. 3，No. 1，1986，161－182.
- (3) 外林大作，辻正三，鳥津一夫，能見義博編，『誠信心理学辞典』，誠信書房，1981.
- (4) 安藤延男著，「教育のための集団」，佐々木薫，永田良昭編，『集団行動の心理学』，有斐閣，1987，219－249.

- (5) 和田実, 若林満, 中村雅彦, 斉藤和志, 「国立大学新入生の進路意識に関する研究(Ⅲ)」, 『第27回日本社会心理学会, 第34回日本グループ・ダイナミックス学会合同大会発表論文集』, 1986, 167—168.
- (6) 安田三郎著, 『社会調査ハンドブック〔新版〕』, 有斐閣双書, 1969.
- (7) 永田照子, 菅田圭次, 恵玲子, 「女子短大生のライフスタイルの研究——短大生活への適応について——」, 『第27回日本社会心理学会, 第34回日本グループ・ダイナミックス学会合同大会発表論文集』, 1986, 163—164.